

3. COVID-19 パンデミック下における ジャパンラグビートップリーグ運営体制の構築

田島卓也*^{1,2}, 堀野哲也*¹, 赤間高雄*¹, 外山幸正*¹
東原潤一郎*¹, 三森教雄*¹, 天野国明*¹, 岡山明洙*¹
國島広之*¹, 帖佐悦男*², 中村明彦*¹

●はじめに

2019 年末からはじまった COVID-19 の影響によりジャパンラグビートップリーグ (JR TL) 2020 年シーズンは途中での中止となった。以後、種々の方策を検討し JR TL 2021 の開幕を目指した。第 3 波により開幕延期となったものの、2021 年 2 月 20 日に開幕し 5 月 23 日の決勝までの 75 試合を企画した。今回は COVID-19 パンデミック下での JR TL 運営について報告する。

●競技会開催に何が必要か？

パンデミック下でのラグビー競技再開の指針を示す (図 1A)。日本ラグビーフットボール協会では活動単位、活動内容、期間を明確に定めており、各チームはこれに沿って練習を再開した。とくに体の接触をとともなうコンタクト練習はさらに細分化され、合計 8 週の期間を経てゲーム形式の練習が可能となる (図 1B)。

感染症蔓延下での競技会開催にあたり、重要なことは①チーム・選手の健康管理、行動管理、②試合を成立させるためのマッチデイドクター (以下 MDD) の確保、③観客対応、である。スタジアム内の競技ゾーン、運営ゾーン、観客ゾーンの導線管理も含め厳格にゾーニングをおこなった。

A : ガイドライン策定

開幕にむけて JR TL 事務局では感染症専門家

を招聘しガイドラインを策定した¹⁾。感染リスクのある行動の回避、感染対策の遵守、濃厚接触者の暫定基準などを盛り込み、いかに陽性者・濃厚接触者にならないか、試合が成立するかを協議し作成した。

B : 健康管理・行動管理

体調不良者を認識、確認することが重要であるため、厚労省およびアメリカ感染症学会の指針を基に評価表を作成した^{2,3)} (図 2)。37.5 度以上の発熱、主項目、副項目より構成され、全選手の体調チェックを毎日おこなった。各チームに COVID-19 担当者を置き、書類の管理・評価を担当してもらった。第 3 波の影響で開幕延期になったのを機に、電子媒体での管理も併用した。全チームの情報管理は JR TL 事務局が一元管理とした。なお、電子媒体には異常値や症状が入力されるとアラートが発生する機能も付帯している。

C : 検査

選手、スタッフの PCR 検査についても十分に協議し、唾液での PCR 検査を採用した。検査の頻度は当初は 2 週に 1 回であったが、開幕延期を機に 1 週に 1 回に変更した。この結果をもとに各チームの練習参加可能人数、試合登録人数を事前に把握するようにした。また、体調不良者や陽性疑い、濃厚接触疑い発生の場合には事務局やチェアマンが適宜判断し試合の可否を決定した。

D : マッチデイドクター (MDD) の確保

JR TL はワールドラグビーが承認するエリートラグビーの範疇に入り、脳振盪評価は Head injury assessment が適用され国際資格を取得した MDD およびチームドクターの存在が必須とな

*1 ジャパンラグビートップリーグメディカルコントロール部会

*2 宮崎大学医学部整形外科

レベル	規模	活動単位	活動内容	留意点	期間
1	禁止	個人単位	体力トレーニング 個人のボールスキル	原則, マスク着用	—
2	10名程度	グループ単位	相手をつけない個人/少人数でのラン/パス/キック 体力トレーニング	マスク着用. 場合によって非着用 活動時/非活動時のソーシャルディスタンスの確保	1週間
3	50名以下	チーム単位	相手をつけない個人/少人数/チームでのラン/キック/パス 体力トレーニング	同上	1週間
4	100名以下	チーム単位	相手をつけたチーム単位でのラン/パス/キック 体力トレーニング	同上	2週間
5	制限なし	チーム単位	通常トレーニング ただしコンタクトは図1B参照	マスクは場合により着用 非活動時でのソーシャルディスタンスへの配慮	別示

図 1A 日本ラグビーフットボール協会におけるレベル別活動指針

レベル	規模	単位	内容	留意点	期間
5-1	10名以下	グループ単位	相手をつけたチーム単位でのラン/パス/キック ディフェンスタッチを入れた簡易ゲーム タグラグビー	タッチは胸から下のみ 人数・時間を考慮 手指・用具の消毒 活動メンバーの固定	2週間
5-2	10名以下	グループ単位	用具を使った1人のコンタクト (ヒット・タックル)	手指・用具の消毒 活動メンバーの固定	2週間
5-3	20名以下	個人単位	1対1のコンタクト (ヒット・タックル)	着替えの準備	2週間
5-4	制限なし	グループ単位	少人数のユニットプレー (3名まで)	着替えの準備	2週間
		チーム単位	ゲーム形式	着替えの準備	

図 1B 日本ラグビーフットボール協会におけるコンタクト練習の段階的実施指針

る。出務する MDD が現場で陽性もしくは濃厚接触者に認定されないことが重要である。濃厚接触者に認定されるかは保健所の判断となる。客観的に見て「どのような状態で接触したか」が重要視される。選手がマスクをしていないことを念頭に、日本環境感染学会⁴⁾、東京都保健福祉局⁵⁾が示している「相手と自分の防護具の違いによるリスクの違い」を参考とし個人防護具 (PPE) を策定した。JRTL における推奨 PPE としてはスライドのごとくであり、フィールドオブプレーに入るスタッフ、医務室スタッフともにアイガード、マスク、グローブ、ガウンを着用することとした (図 3)。また、PCR 検査も義務付けた。

E: 観客対応

観客救護はマスギャザリングにおける重要項目であり、イベントの成否を左右する事項である。2021 シーズンは 5,000 名もしくは収容人数の 50%

で策定した。なお、ラグビー試合会場ではつきものであるアルコールの販売は禁止とした。発熱者、体調不良者の入場について厳しく管理するために入場ゲートでの検温と体調チェックをおこない、該当者は入場不可とした。また、入場後に救護室での処置を希望する場合も事前に 2 回目の検温をおこなうこととした。スタジアム内には観客用救護室とスクリーニング室の 2 つをセットで設置した。スクリーニング室で発熱や感染疑いをチェックし、パスできた方のみが救護室に入れることとした。スクリーニング室には PPE、看護師、警備スタッフ、事務局スタッフ、救護室には PPE、看護師、医師を配備した。

●終わりに

チーム・選手の健康管理と行動管理、試合を成立させるための有資格 MDD、観客救護に対する

3. COVID-19 パンデミック下におけるジャパンラグビートップリーグ運営体制の構築

TL2021 コンディションチェックシート												
氏名											※提出の必要はありませんが、要求があった際には速ちに提出できるようにしておくこと	
日にち	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日
時間	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	
検温 (37.5度以上で下段自主隔離要件確認)	℃		℃		℃		℃		℃		℃	
強い倦怠感・息苦しさがある	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>								
味覚・嗅覚に違和感がある	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>								
風邪の症状がある (せき、くしゃみ、のどの痛み)	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>								
腹痛や下痢をしている	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>								
吐き気がする	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>								
食欲が低下している	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>								
頭痛がする	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>								

日にち	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日
時間	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	
検温 (37.5度以上で下段自主隔離要件確認)	℃		℃		℃		℃		℃		℃	
強い倦怠感・息苦しさがある	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>										
味覚・嗅覚に違和感がある	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>										
風邪の症状がある (せき、くしゃみ、のどの痛み)	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>										
腹痛や下痢をしている	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>										
吐き気がする	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>										
食欲が低下している	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>										
頭痛がする	はい <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>										

自主隔離の目安 (下記の★の記載に該当する場合にはCOVID-19担当者に報告/かかりつけ医を受診すること)	
★ 37.5度以上の熱がある場合	
★ 主項目 1項目 + ほかに 1つ以上の項目に該当する場合	主項目 ⇒ 強い倦怠感 息苦しさ 味覚異常 嗅覚異常
★ 副項目 3項目が認められる場合	副項目 ⇒ 37.0以上の発熱 咳・くしゃみ・鼻水 腹痛や下痢 吐き気・嘔吐 食欲低下

図2 体調不良者の確認・評価表. 37.5度以上の発熱, 主項目1つ+ほかに1つ以上の項目, 副項目3つ以上該当, のいずれかで判断する.

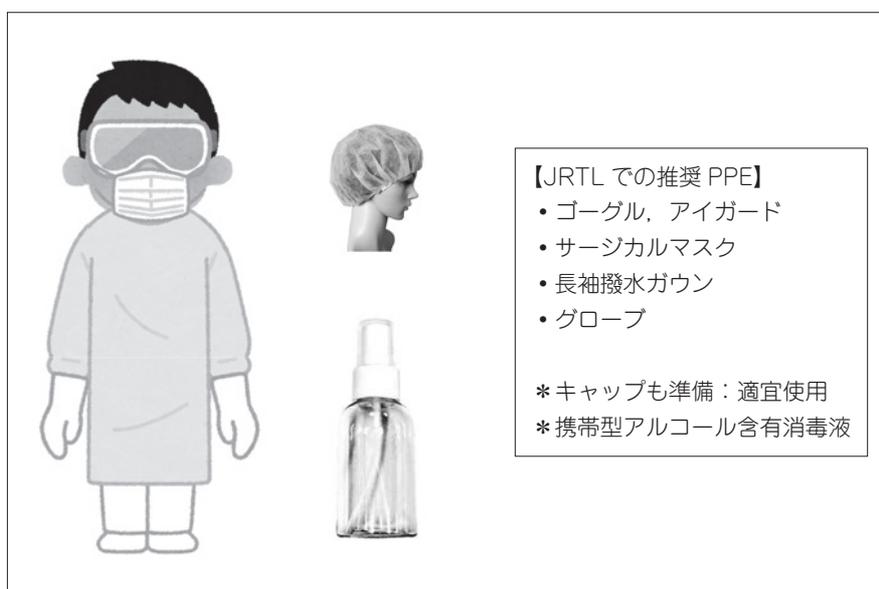


図3 JRTLにおける推奨される個人防護具 (PPE)

対策を講じて運営した。当初の開幕時には第3波の最中であり、全16試合が中止になる可能性があったため、さらなる対策を講じて2月20日の開

幕を迎えた。予定試合数は75試合に減少したが57名の有資格ドクターにMDDとして出務いただくことができ、COVID-19による試合中止も2

試合で最終的に 73 試合が実施可能であった。

選手・チームのみならず日本協会, 都道府県協会 MDD, 地域の医療関係者, 保健所など関わる皆様の横断的なサポートによりシーズンを終えることができた。関係各者に心より御礼申し上げます。

文 献

- 1) ジャパンラグビートップリーグ. 新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン. 入手先 : https://www.top-league.jp/wp-content/uploads/2021/05/TL2021-guidelines-covid19_5th.pdf
- 2) 厚生労働省. 新型コロナウイルス感染症 COVID19 診療の手引き. 入手先 : <https://www.mhlw.go.jp/content/000875189.pdf>
- 3) Hanson KE, Caliendo AM, Arias CA, et al. Infectious disease society of America guidelines on the diagnosis of COVID-19. Clin Infect Dis. 2020 Jun 16; ctaa760 doi: 10.1093/cid/ctaa760.
- 4) 日本環境感染学会. 医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド第 3 版. 入手先 : http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/COVID-19_taioguide3.pdf
- 5) 東京都保健福祉局. 医療機関における新型コロナウイルス感染症患者受け入れに向けた準備ガイドライン. 入手先 : https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/kyuukyuu/saigai/covid19ukeire_guideline.html